

2017年4月27日

JR東日本 仙台支社

JR仙台病院における「体外衝撃波結石破砕装置」及び 「持続血糖モニター装置」の導入について

～地域医療機関の一員として～

JR東日本は、国鉄から承継した直営病院を地域医療の担い手の一つと位置づけ、医療の側面から地域に貢献することとしています。高齢化など社会情勢の変化の中、「治療を目的とする急性期型医療」に加え、完治はしなくとも生活を続けられる身体の状態を維持する「生活支援型医療」を充実させ、クリニック等医療機関との連携強化をめざしております。

この度、JR仙台病院で新たに「体外衝撃波結石破砕装置」、「持続血糖モニター装置」を導入し、尿路結石や糖尿病等の治療に関する機能強化を図りましたので、お知らせいたします。

体外衝撃波結石破砕装置を、仙台市周辺で8番目に導入

体外衝撃波結石破砕治療（ESWL）は、尿路結石を外科手術せずに体の外より衝撃波をあて、筋肉や他の臓器に傷をつけることなく結石を粉々に砕き、体の外に流し出す治療法です。この程、当院では、最新型の装置を配置し、身体への影響を最小限に抑えた治療を導入いたしました。

体外式衝撃波結石破砕装置は、仙台市周辺の病院では8番目の導入となります。

尿路結石は7名に1人が生涯に一度は罹患すると言われています。個人差はありますが、標準的な治療で30～60分程度、1泊2日の入院で結石の除去が可能です。痛み等の症状がなくとも治療が必要な場合がありますので、気になる方は当院泌尿器科にご相談ください。



持続血糖モニター装置の新規導入

簡単な装置を身体に装着し、血糖等の測定を簡単に行うモニターを導入しました。装置を装着したまま通常の生活を行うことも可能で、隠れた高血糖、低血糖を把握しやすくなりました。持続血糖モニター装置は現在、保健診療として実施できる医療機関が限られています。ご興味のある方は、かかりつけの先生にご相談ください。



下肢静脈瘤など血管治療の診療

当院は、全国に先駆けての血管検査室（バスキュラー・ラボ）を設置するなど、従来から血管診療に力を入れてきました。特に下肢静脈瘤については、レーザー治療の臨床試験実施施設に選ばれるなど、実績を重ねております。症例に応じて術式を使い分け、日帰り手術にも対応するなど、今後とも地域の需要に応えてまいりますので、気になる方は当院外科にご相談ください。

その他、地域医療に関する取組み

・「J - Friends交流会」

1型糖尿病の罹患は10万人に1～2名と言われ、完治が難しい病気です。同じ境遇の方との情報交換が難しいため、幅広い患者さまが集まる交流会を、小児科にて開催しています。14年目の今年は、5歳で発症したばかりのお子様から治療を続けて大人として生活を送っている方までの幅広い患者さまに加え、ご家族・ボランティアの方など合わせて60名以上に参加頂きました。患者さまの学校の担任の先生もお越しになり、生活上の留意点等を熱心に学んで行かれました。



・患者さまに対する癒しの提供としての「病院コンサート」の開催

病院ロビー等を活用し、患者さま、地域の方向けのコンサートを定期的に行っています。ピアノやフルート、バイオリン等の楽器を中心に、様々な方に演奏頂いています。ジャンルはクラシック、ジャズ、民謡、ポップス等幅広く演奏されています。

詳しい開催日時はJR仙台病院サイト (<http://jrsendai-hospital.jp/>) や院内ポスターにてお知らせします。

JR仙台病院（仙台市青葉区五橋1-1-5）はどなたでも受診して頂ける病院です。仙台駅至近に立地し、地域の皆さまに「安全で良質な医療」と「最新で適正な検査・診断・治療」を提供するとともに周辺医療機関等との密な連携を通じて医療サービスの向上に取り組んでいます。

【JR仙台病院の概要】

- ・病床数：197床（一般156、地域包括41）
- ・院長名：市来 正隆
- ・診療科数：15科（内科、消化器内科、外科、小児科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、循環器内科、泌尿器科、麻酔科、精神・神経科、放射線科、眼科、婦人科、耳鼻いんこう科）
下線は入院体制のある科
- ・開院：大正10年（仙台鉄道病院）
昭和57年 保健医療機関の指定を受け一般開放